

米国の高温・乾燥と 食料需給・価格の動向 (10月)

農林水産省

平成24年10月17日

米国の高温・乾燥と穀物生産への影響

- 米国産とうもろこしの生産見通しは、6月以降のコーンベルトの高温・乾燥の影響で、前年度に比べて大幅に減少し、2006年以来の低水準の見込み。
- 米国産大豆についても、高温・乾燥の影響で、生産量見通しは、前年度に比べて大幅に減少し、2007年以来の低水準の見込み。

- ・米国産とうもろこしの生産量は、前年度の313.9百万トンから271.9百万トン(13.4%減)へ大幅に減少見込み。
- ・受粉期の高温・乾燥の影響で、6月予測に比べ103.7百万トン(27.6%減)の大幅な下方修正。
- ・期末在庫量は、前年度の25.1百万トンから、15.7百万トン(37.4%減)へ大幅に減少見込み。

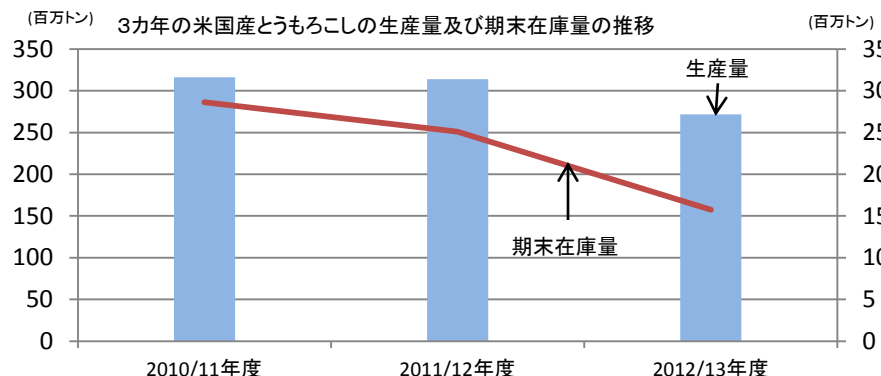


表1 米国産とうもろこしの需給見通しの推移

(単位:トン/ヘクタール 百万トン %)

	2012/13				(参考) 2011/12
	6月報告	10月	前年度比(%)	6月→10月	
単 収	10.4	7.7	▲ 17.1	▲ 2.8	9.2
生 産 量	375.7	271.9	▲ 13.4	▲ 103.7	313.9
輸 出 量	48.3	29.2	▲ 25.5	▲ 19.1	39.2
消 費 量	301.6	254.0	▲ 8.9	▲ 47.6	279.0
期末在庫量	47.8	15.7	▲ 37.4	▲ 32.1	25.1

- ・米国産大豆の生産量は、前年度の84.2百万トンから77.8百万トン(7.5%減)へ大幅に減少見込み。
- ・開花期の高温・乾燥の影響で、6月予測に比べ9.4百万トン(10.8%減)の大幅な下方修正。
- ・期末在庫量は、3.5百万トンと前年度の4.6百万トンより減少し、低水準となる見込み。

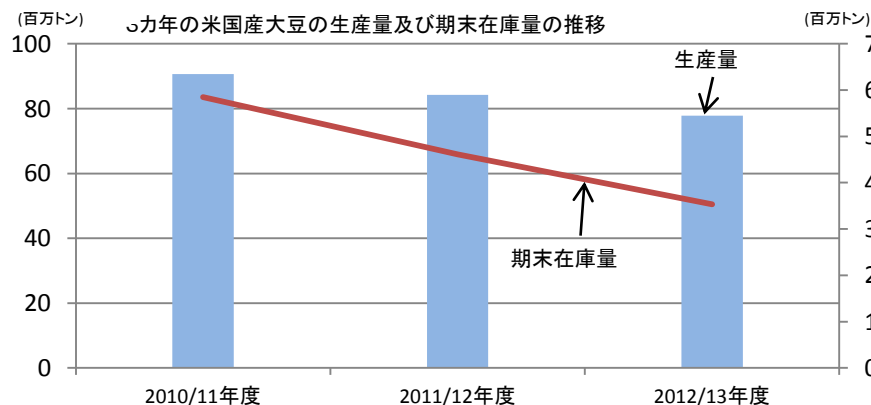


表2 米国産大豆の需給見通しの推移

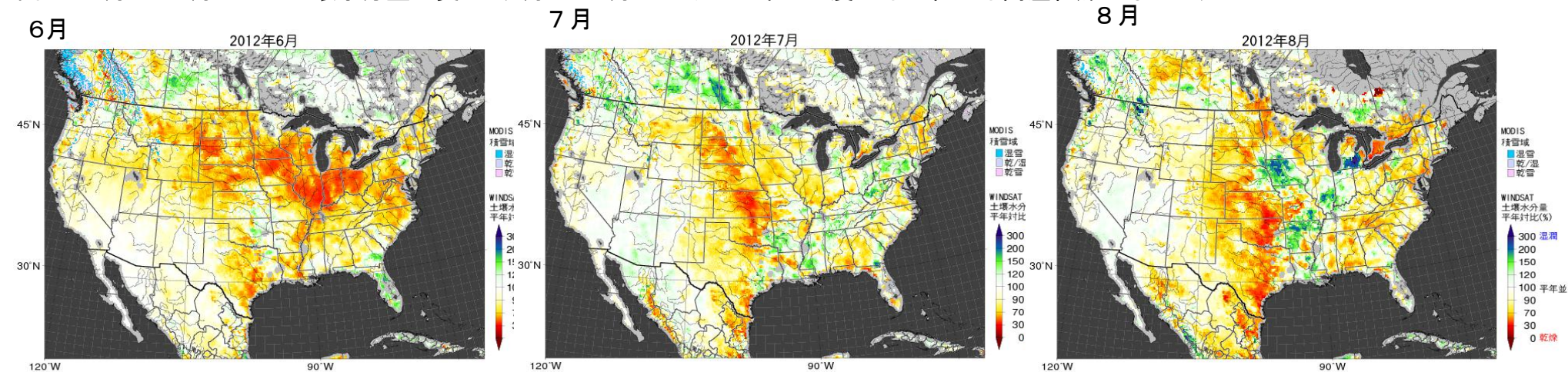
(単位:トン/ヘクタール 百万トン %)

	2012/13				(参考) 2011/12
	6月報告	10月	前年度比(%)	6月→10月	
単 収	3.0	2.5	▲ 9.9	▲ 0.4	2.8
生 産 量	87.2	77.8	▲ 7.5	▲ 9.4	84.2
輸 出 量	40.4	34.4	▲ 7.0	▲ 6.0	37.0
消 費 量	48.2	45.1	▲ 7.8	▲ 3.1	48.9
期末在庫量	3.8	3.5	▲ 23.4	▲ 0.3	4.6

大豆・とうもろこしの作柄（優＋良）の変化

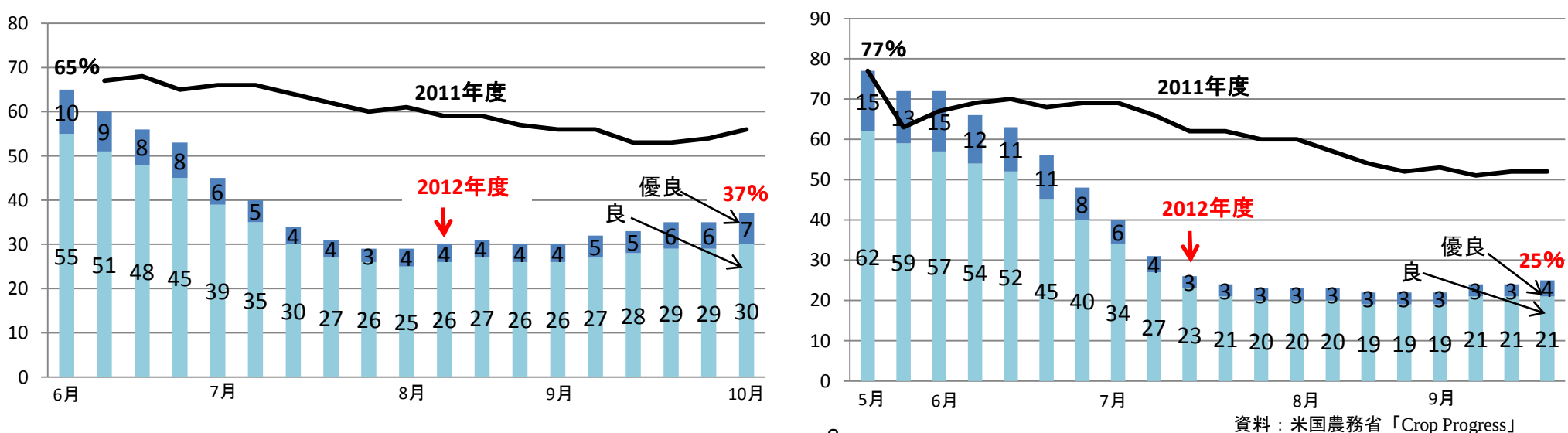
- 米国コーンベルトでは、6月以降の高温・乾燥の影響により、とうもろこし、大豆の作柄が著しく悪化。
- 8月にはほぼ平年並みの土壌水分量に回復したものの、作柄の改善には遅かったとみられている。

図1 6月から9月までの土壌水分量の変化（6月から7月にかけて70年に一度ともいわれる高温乾燥となった）



資料：JAXA提供「WINDSAT土壌水分プロダクト」「JASMES積雪プロダクト」を農林水産省にて加工。

図2 6月から9月までの大豆・とうもろこしの作柄（優＋良）の変化（6月以降、高温乾燥の影響を受け著しく作柄が悪化）



大豆・穀物等の国際価格の推移（2008年1月以降）

○大豆は、昨年12月以降の南米の高温・乾燥、中国の輸入需要期待や、6月以降の米国の高温乾燥の影響等から上昇し、7、8月に最高値を更新。9月4日には再度最高値を更新（17.71ドル/bu）。

○とうもろこしは、6月以降の米国の高温乾燥の影響から上昇し、大豆同様7月に最高値を更新。8月21日には再度最高値を更新（21日：8.31ドル/bu）。

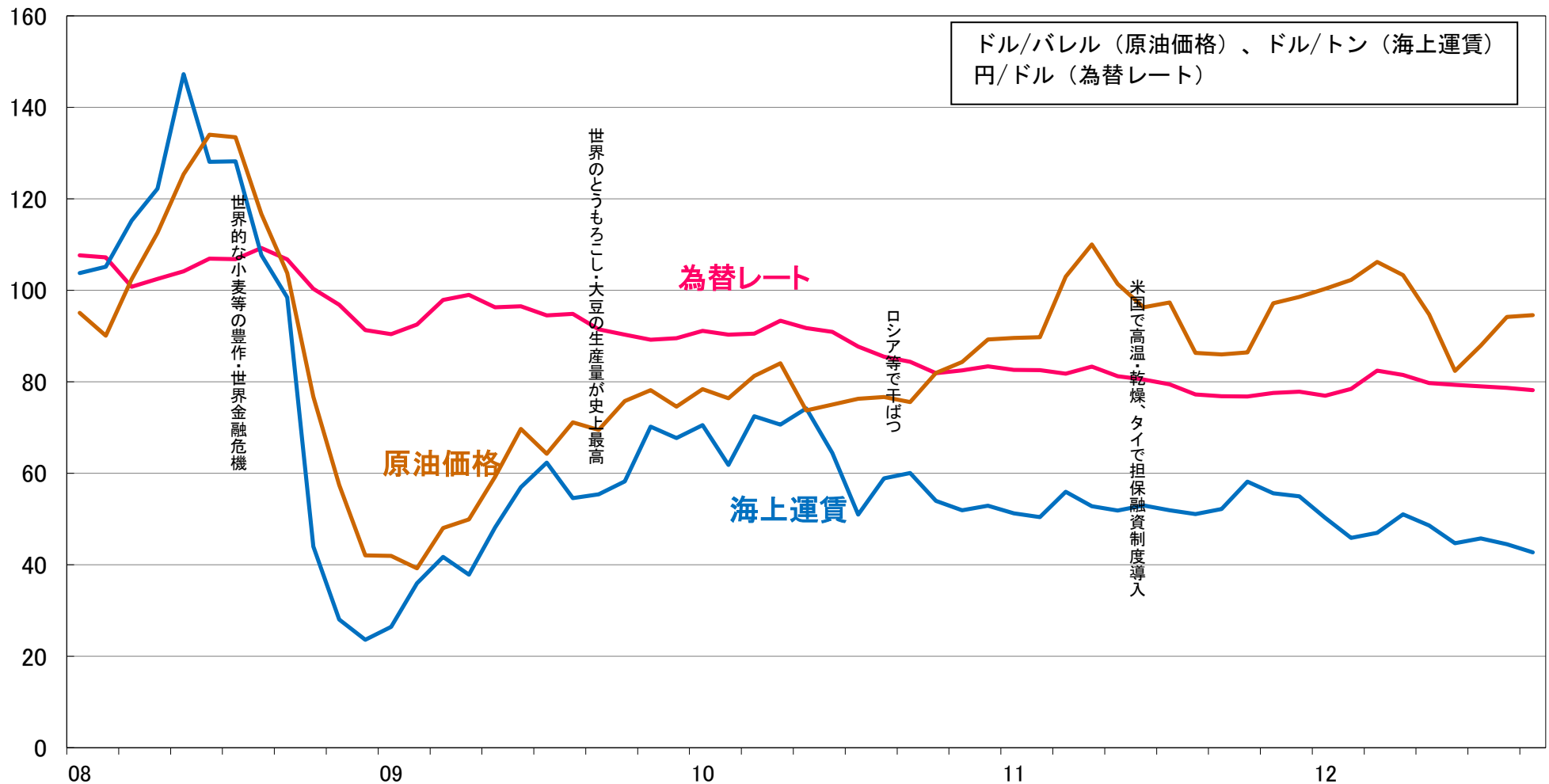
○小麦も、世界の在庫水準は大きく下がってはいないものの、とうもろこし相場の上昇に連動し、4年ぶりの高値を記録。



原油価格・為替・海上運賃等の影響

- 1 近年、原油価格や海上運賃等の大幅な価格変動が、我が国の食品の原材料コスト・価格に影響。
- 2 原油価格は、2009年初めにかけて大幅に下落した後は、景気回復への期待感やドル安などにより上昇傾向。海上運賃は、直近では新造船の供給増や中国向けの船舶需要の減少等により軟調に推移。

【図】 原油価格、為替レート、海上運賃の推移



資料:「U.S. Energy Information Administration」(原油価格)、「World Maritime Analysis Weekly Report」(米国ガルフー日本間パナマックス級の海上運賃)、日本銀行(為替レート、対ドル円相場)

本年6月以降の食品小売価格の動向

- 国内の食品小売価格は、本年6月以降も小幅な値動き。現時点では穀物等の国際価格の上昇が国内の食品小売価格に及ぼす影響は限定的とみられる。

平成24年6月～8月の食品小売価格の動向

消費者物価指数(総務省)				
品目	平成24年 6月	平成24年 7月	平成24年 8月	上昇率 (8月/6月)
食パン	101.5	100.9	100.6	-0.9%
即席めん	100.0	99.5	98.8	-1.2%
豆腐	97.0	96.7	96.0	-1.0%
食用油 (キャノーラ油)	98.8	99.0	100.2	1.4%
みそ	98.9	97.8	98.8	-0.1%
チーズ	98.0	98.0	95.1	-3.0%
バター	103.5	103.5	103.0	-0.5%

資料:総務省消費者物価指数

注1:平成22年の平均値を100とした指数で表記している。

注2:平成24年8月の調査結果は総務省が9月28日に公表したもの。

【参考】平成24年8月～10月の食品小売価格の動向 (速報値)

食品価格動向調査(農林水産省)				
品目	平成24年 8月	平成24年 9月	平成24年 10月	上昇率 (10月/8月)
食パン	97.1	97.1	96.7	-0.4%
即席めん	106.9	107.7	106.9	0.0%
豆腐	101.3	100.8	100.4	-0.9%
食用油 (キャノーラ油)	89.9	90.8	90.8	1.0%
みそ	117.5	117.5	117.3	-0.2%
チーズ	112.8	112.8	110.7	-1.9%
バター	105.5	105.5	107.1	1.5%

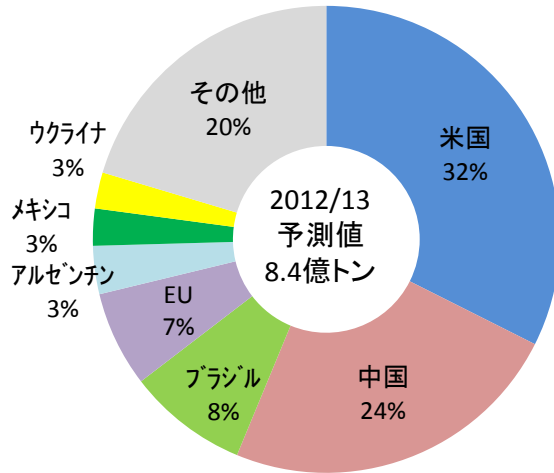
資料:農林水産省加工食品小売価格調査

注1:平成20年1月の価格を100とした指数で表記している。ただし、バターについては平成20年5月の価格を100とした指数で表記している。

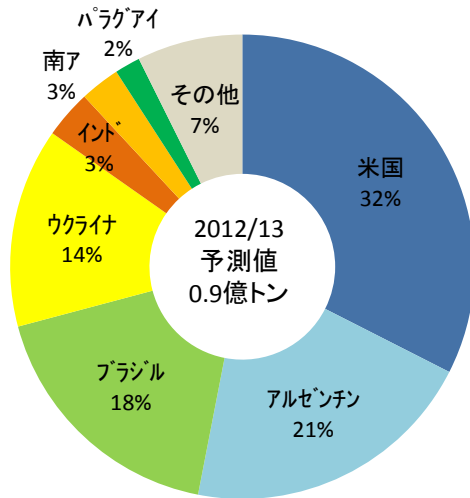
注2:平成24年10月の調査結果は10月17日に公表したもの。

世界のとうもろこし生産量と輸出量/日本の輸入量

世界のとうもろこし生産量

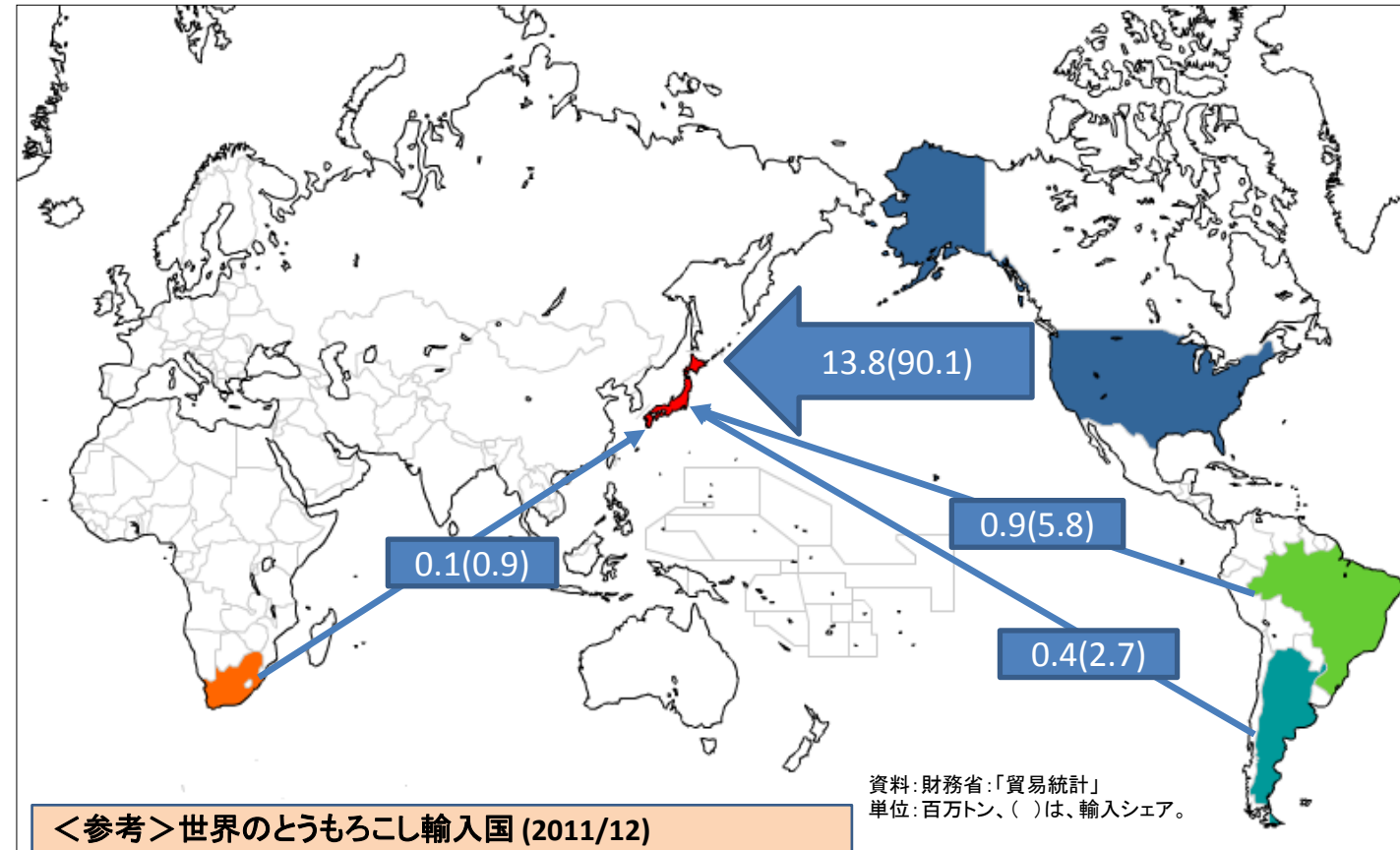


世界のとうもろこし輸出量

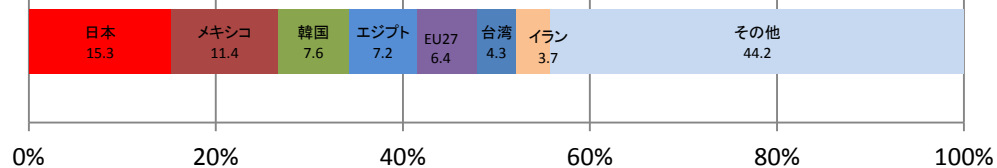


資料: USDA「WASDE」 October 2012

日本の国別とうもろこし輸入量(2011年)



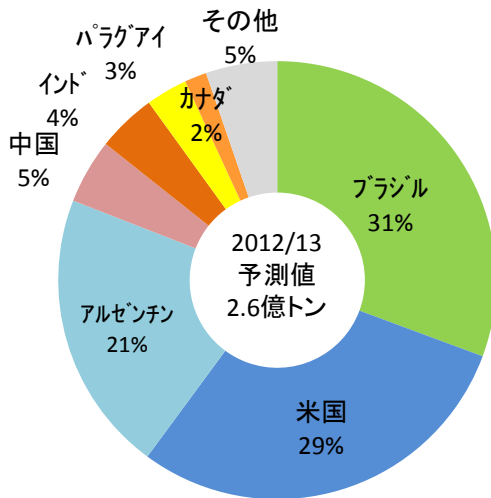
<参考>世界のとうもろこし輸入国 (2011/12)
ー日本は世界一のとうもろこし輸入国ー



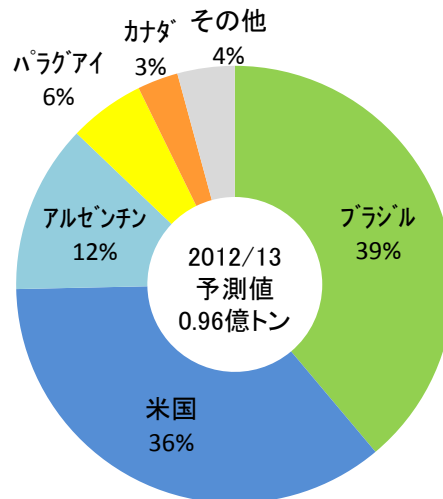
資料: USDA: PSD October 2012

世界の大豆生産量と輸出量/日本の輸入量

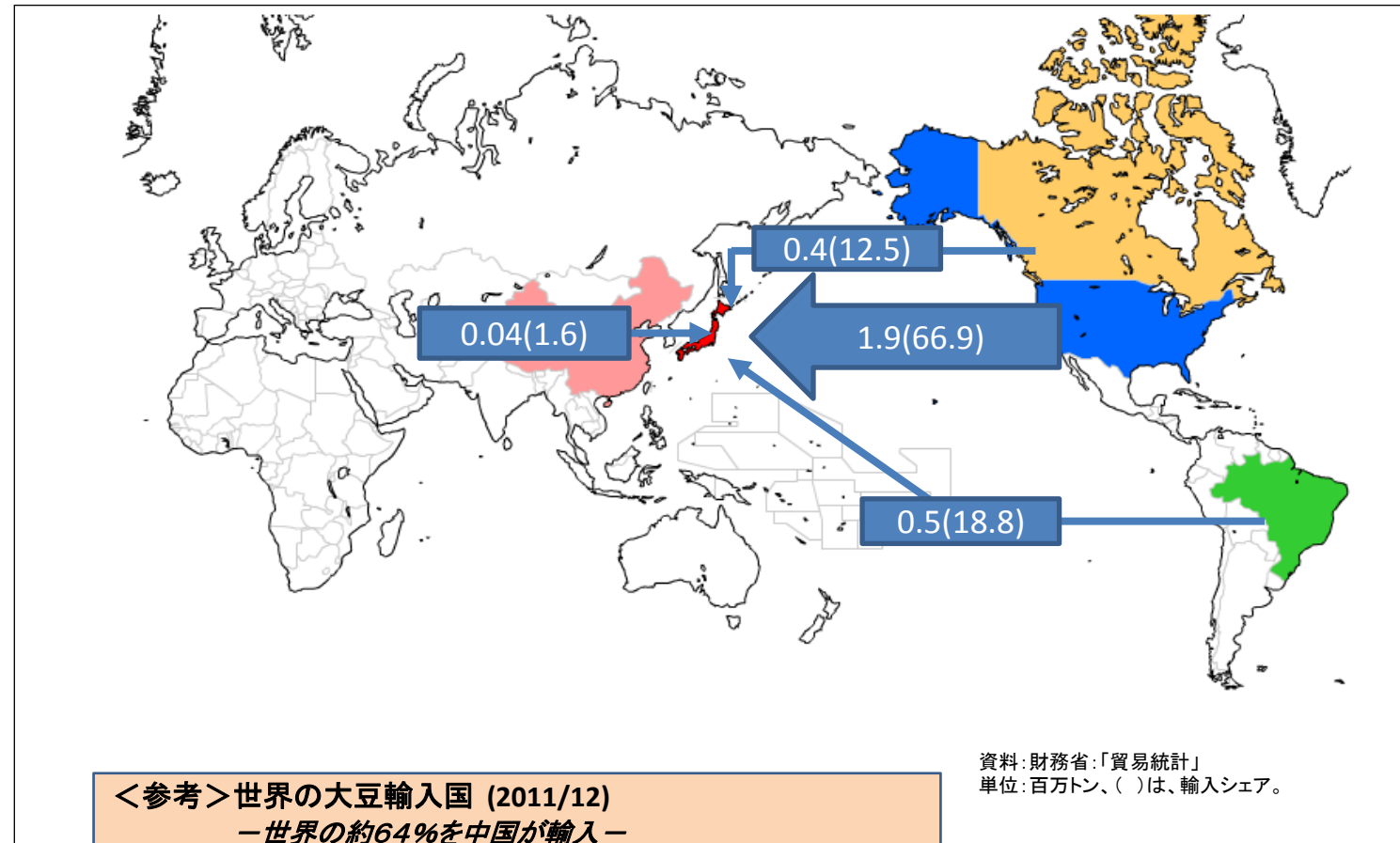
世界の大豆生産量



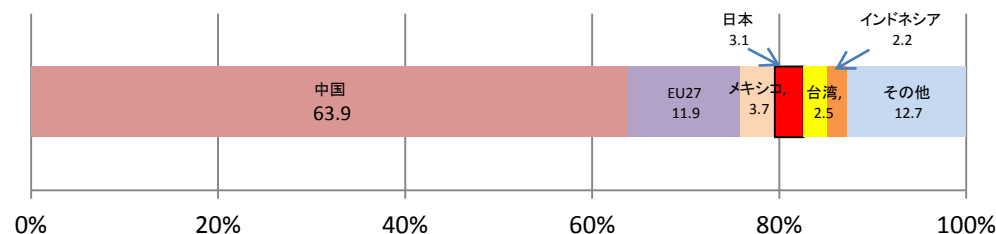
世界の大豆輸出量



日本の国別大豆輸入量(2011年)



<参考>世界の大豆輸入国 (2011/12)
—世界の約64%を中国が輸入—



日本の大豆生産量
2010年:22.3千トン
2011年:21.9千トン
(資料:農林水産統計)